

経済水道委員会

説明資料

今後の名古屋市国際展示場のあり方について

平成30年12月18日

観光文化交流局

目 次

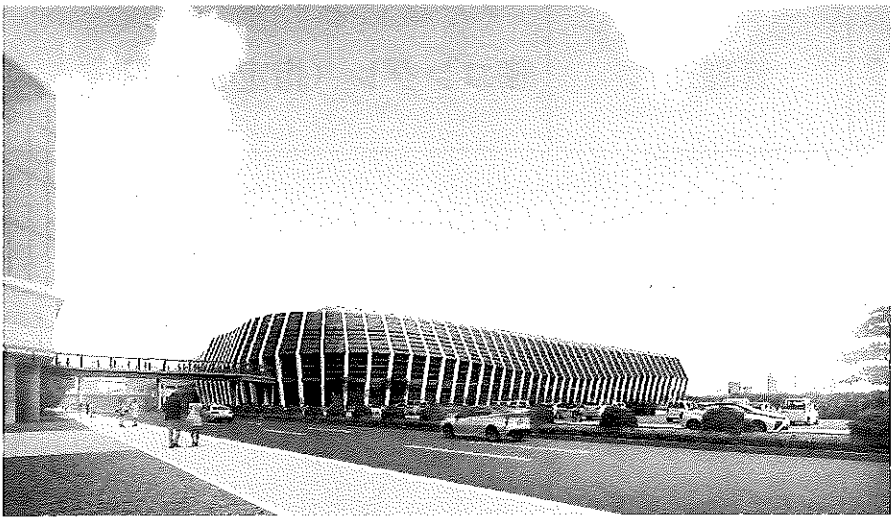
	頁
1 国際展示場の現状及び今後の整備概要等……………	1
2 大規模展示場整備にかかる検討経緯……………	5
3 「今後の展示場のあり方検討懇談会」の概要……………	6
4 今後の検討の方向性……………	9

1 国際展示場の現状及び今後の整備概要等

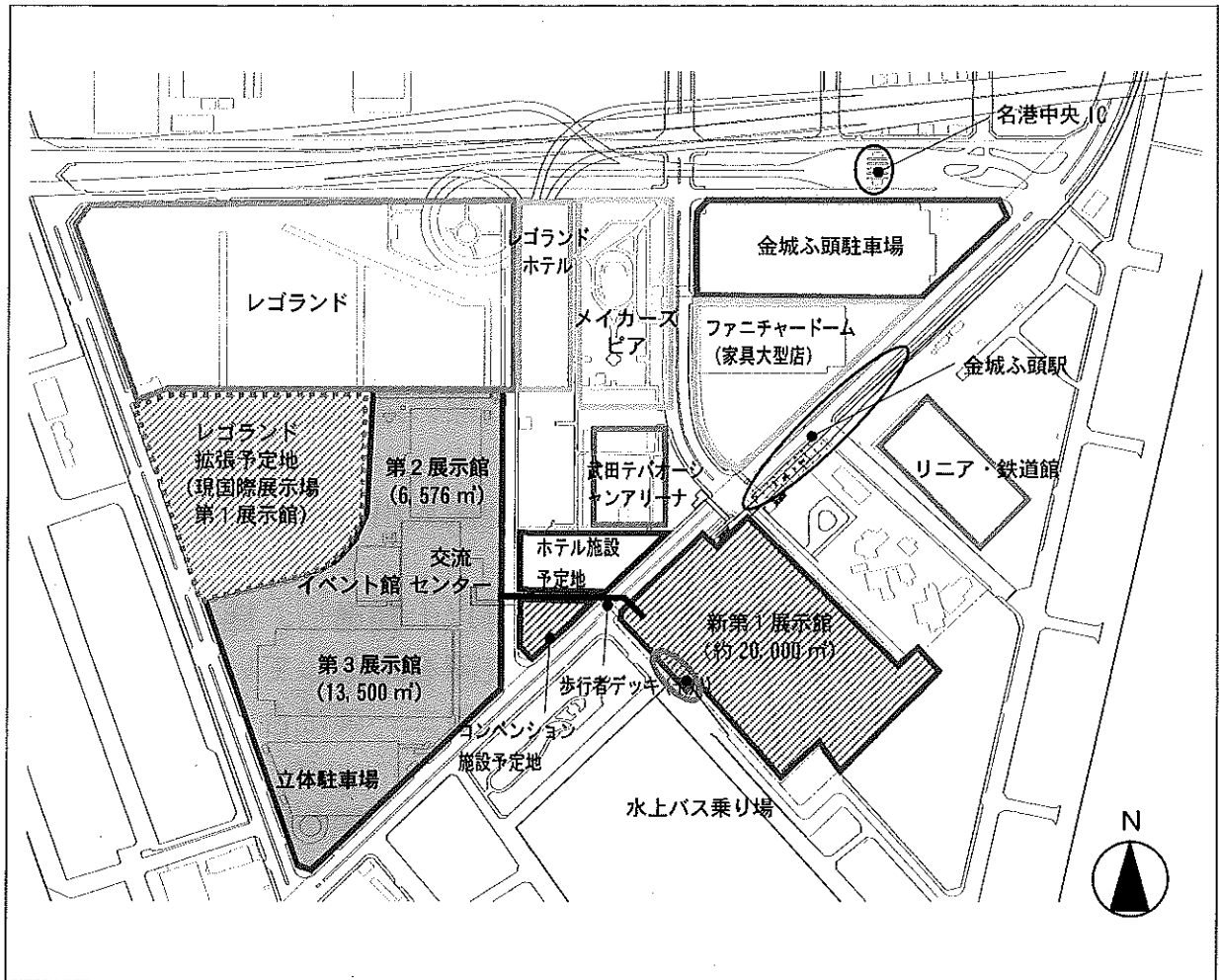
(1) 現在の施設概要

区 分	内 容
所在地	名古屋市港区金城ふ頭二丁目2番地
開館年月	第1展示館 昭和48年11月 第2展示館、イベント館 昭和62年9月 第3展示館、交流センター、立体駐車場 平成5年10月
敷地面積	約129,064m ²
主な施設内容	第1展示館（展示面積：13,870m ² ） 第2展示館（展示面積：6,576m ² ） 第3展示館（展示面積：13,500m ² ） イベント館（延床面積：4,869m ² ） 交流センター（延床面積：13,565m ² ） 立体駐車場1,000台
管理運営	(株)コングレ（指定管理者）

(2) 新第1展示館の整備概要等

区 分	内 容
場 所	名古屋市港区金城ふ頭二丁目
敷地面積	約44,000㎡
展示面積	約20,000㎡
設計・建設期間	平成31年度から平成34年度（3年3か月間）
維持管理期間	平成33年度から平成52年度（20年間）
供用開始	平成34年10月（予定）
イメージ図	 <p>西側より望む</p>
その他	新第1展示館整備と合わせ、必要となる会議施設等を有するコンベンション施設の検討を進めていく

(3) 位置図



(4) 課題

区 分	内 容
運営面	<ul style="list-style-type: none">・利用率向上・利用面積拡大に伴い、一部の利用希望を受け入れられていない・搬入出車両と来場者の動線が一部交錯しており、安全面での課題がある
施設・設備面	<ul style="list-style-type: none">・展示場や周辺施設の段階的整備を踏まえた、展示場全体の配置及び利用者、来場者動線の最適化に向けた検討が必要となっている・利用面積拡大に伴い、大型搬入出車両の待機場所や転回スペースが不足している・第2展示館開館後、30年以上経過し、施設全体の老朽化など、利用者サービスに支障をきたしている・天井の梁の仕様が現在の利用ニーズに合っておらず、吊物展示に制限がある・新第1展示館整備後は、既存展示館が離れた場所となるため、誘導サイン等の設置による来場者の回遊性確保が必要となる

(5) 今後の国際展示場の利用見込み

- ・新第1展示館開館後は従来の展示会利用に加え、コンサートやスポーツ利用が増えることが見込まれ、これまでの利用日数と比較し約2倍の利用希望が見込まれている
- ・一方で展示会は月曜から金曜の平日5日間、コンサートは木曜から日曜の週末4日間の利用が多く、いずれか一つの予約しか受けられない
- ・こうした中、新第1展示館開館後は全館約70%程度利用率が見込まれているものの、受け入れられない利用希望も多数発生する見込みとなっている

注 平成30年度主催者ヒアリング等による

2 大規模展示場整備にかかる検討経緯

区 分	内 容
平成24年 9月	・本会議質問に対し、「10万㎡規模の展示場も視野に入れ、関係局等と十分に調整する」旨、表明
平成25年12月	・「名古屋市における展示場のあり方構想懇談会（第1回）」を開催（計4回開催）
平成27年 2月	・「名古屋市における展示場のあり方構想懇談会（第4回）」を開催。稲永ふ頭を軸に大規模展示場の可能性調査を実施することを表明
平成27年 3月	・「大規模展示場の整備等に関する調査」にかかる当初予算議決
平成28年 5月	・経済水道委員会所管事務調査「大規模展示場の整備等に関する調査」結果報告。新第1展示館の移転整備を着実に進めることと、更なる展示場の拡充について、空見ふ頭での検討を進める旨、表明
平成29年 3月	・「空見地区における大規模展示場整備に関する調査」にかかる当初予算が附帯決議付可決
平成30年 2月	・市長が空見地区での大規模展示場整備が事実上困難である旨、表明
平成30年 3月	・新第1展示館移転改築等にかかる当初予算（債務負担行為）議決 ・「今後の展示場のあり方検討」にかかる当初予算議決
平成30年 9月	・「今後の展示場のあり方検討懇談会（第1回）」を開催（計3回開催）

3 「今後の展示場のあり方検討懇談会」の概要

(1) 設置目的

名古屋市における展示場のあり方について、当地域をとりまく新たな環境変化を踏まえた今後の方針策定に向けて、外部有識者から意見を聴取するため、今後の展示場のあり方検討懇談会を開催する

(2) 懇談会メンバー

- ・有識者委員：学識者3名、企業関係者等7名、展示会主催者3名
- ・オブザーバー：国関係機関2名

(3) 開催概要

区分	議 題	開催日
第1回	・国内外の展示会、展示場を取り巻く状況 ・当地域における展示場環境 ・今後の整備検討に向けて	平成30年 9月11日
第2回	・更なる展示場拡充の必要性及び整備規模・時期等の検討	平成30年 10月24日
第3回	・今後の展示場のあり方について（まとめ）	平成30年 11月 8日

(4) 主な意見

区分	主な意見
第1回	<p><展示場の競争力強化に取り組む目的・必要性></p> <ul style="list-style-type: none">・名古屋市を含め中京圏は、最強のものづくり地域。その経済活動を側面から支える展示場整備が大切 <p><名古屋市の弱み></p> <ul style="list-style-type: none">・展示場整備にあたっては、宿泊施設の不足が課題・現展示場のアクセス面では、あおなみ線の使い勝手が悪い <p><今後の進め方></p> <ul style="list-style-type: none">・リニアの幕開けに向けてどこまで作り、最終的にどこまでつくるかステップ型の議論をしてもらいたい
第2回	<p><展示場拡充の必要性></p> <ul style="list-style-type: none">・主催者側の意見として拡充は必要。規模があれば、同時開催も考えられる。来場者が相乗的に増えれば、出展者も増える・リニア開業前の現時点で、市内での展示会需要に対応出来ていない。この地域の産業の競争力強化、中小企業支援などの足を引っ張っており、早急な機能強化が必要 <p><整備規模及び場所></p> <ul style="list-style-type: none">・用地がなければ、第2、第3展示館を複層化し6万㎡にし、新第1展示館の2万㎡と合わせ、計8万㎡にしてはどうか・規模は大きい方が良いが、面積だけを重視すると使い勝手が悪くなる <p><整備時期></p> <ul style="list-style-type: none">・現時点で機会を逸失しており、早く拡充する必要がある

区分	主な意見
第3回	<p><展示場拡充の必要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示会の重要性が増す中、現状は、面積が足りておらずビジネスチャンスを逸失している。スピーディな拡充が必要 <p><整備規模及び場所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地買収、用途変更の必要もなく、一定の交通アクセスが整っている金城ふ頭で、機能拡充することが最も合理的 ・現第2、第3展示館を機能強化しつつ、大幅な面積減を避けるため、第1ステップで6万、次に8万といった段階的整備を検討すべき。8万㎡以降の拡充も長期的に検討すべき ・現地建替えて8万㎡が本当に可能か疑問。実現するのであれば大賛成だが、現実との乖離があるように感じる <p><整備時期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア開業を見据え、2027年での8万㎡を目指し、拡充を進めるべき ・2027年ごろまでに6万㎡まで拡充し、その次の8万㎡までの拡充は、リニア開業後の需要と県の稼働状況を見極めつつ、出来るだけ早く拡充すべき <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県展示場との関係については、主催者側が展示会の特徴に応じて使い分けをすることになると思う ・足元の需要に対応するため、6万㎡程度まで拡充するなら、県との需要調整、棲み分けの話は、必ずしも必要ないのでは ・レゴランドと展示場の相乗効果をどう生かしていくか、また車でポートメッセへのアクセス向上が課題 ・新第1展示館と第2、第3展示館を一体的に使用できるような工夫が必要

4 今後の検討の方向性

(1) 趣旨

- ・世界有数のものづくり産業集積地となった名古屋圏の産業力をさらに一段高め、名古屋が世界のイノベーションをリードし推進する地となるよう、より大規模な展示場整備を進める必要がある
- ・リニア開業による「スーパー・メガリージョン」の誕生により、本市がその中心都市として、産業、観光など幅広い分野で世界から人をひきつける国際都市へと成長する可能性を秘めていることから、この機会をとらえたスピード感ある整備が求められる

(2) 検討の方向性

- ・今後の需要見込みなどを踏まえ、新たな用地取得を要さない、現地建替えによる展示場拡充を案とし、大規模展示場整備の検討を行っていく
- ・次年度以降、リニア開業時を目安とした拡充を目指し、既存施設の課題整理や施設配置、規模及び交通アクセス等の課題の検討を踏まえ、今後のポートメッセなごや全体の基本的な構想の策定を行っていく

(3) 今後の検討の流れ

